

第4回定例会 個人質問

平成30年12月5日

問 セーフコミュニティについての質問ですが、2011年5月に取組みを宣言し、推進協議会の設置や重点課題の設定、また6つの対策委員会による活動を開始され、2013年11月16日にセーフコミュニティ認証を取得されました。再認証までの5年間の取組みとして、交通事故や犯罪、また地域の絆を強めていく活動のなかで、安心・安全なまちづくりを推し進めてこられ、2018年11月18日に再認証を取得されました。5年後の、再再認証に向けてどのように進めていくのか、市としての考えをお聞かせください。



答 本市は平成25年11月にWHOセーフコミュニティ国際認証を取得し、地域の皆様をはじめ、関係団体や行政機関とともに事故やけがの予防に向けた取組みを進めてきました。6つの対策委員会の活動を中心に、多くの地域の方や関係機関との連携を深めながら、安心・安全なまちづくりを推進し、その内容や効果などの検証を積み重ね、刑法犯の認知件数が平成23年と比較して、現在48%減少し、街頭犯罪については55%の減少となっています。今後は、セーフコミュニティの取組みによる成果を数値化することで、財政的な効果についてもしっかり検証を進めるとともに、地域との協働によるセーフコミュニティ活動を継続的に実施し、更に安心・安全で魅力的なまちづくりを進めてまいります。



問 まつばらマルシェについての質問ですが、8年前、第1回まつばらマルシェが行われ、南大阪最大級の地産地消フェア、買って、食べて、楽しんで、をテーマに、30,200人の方に来ていただき盛大に開催されました。今回、第9回目のマルシェが開催され、過去最高の来場者となる41,161人の方が参加されました。今まで地道に取組みを進めてきた内容や、今後、新たな発想を取り入れた取組みについて、市としてどのようにお考えなのか、お聞かせください。



答 市長に就任して以降、「食」を基本テーマとしております地産地消フェア「まつばらマルシェ」において松原市内のすぐれた企業者、店舗や製品などに一層焦点を当て、市内外への松原ブランドの情報発信を行うことを軸として農工商及び産学官連携のもと実施してまいりました。今年、登美丘高校ダンス部OGのバブリーダンスをはじめ、松原市ドリームアンバサダーDream Ayaさん、松原市観光協会エグゼクティブプロモーションアドバイザー木氏によるラジオ公開収録を行い、9回目の開催は41,161人と大いに盛り上がる事ができました。節目となる第10回目を盛大に実施するとともに、マルシェが終わった以降も出店効果を実感してもらえるような取組みについて、研究してまいりたいと考えております。

問 子どもの教育環境の整備について、熱中症対策に伴う冷水器設置についての質問ですが、本年、第3回定例会で、小中学校のクーラー設置に対しての補正予算が組まれました。来年の夏には涼しい環境で勉強できるよう取組んでいただいておりますが、学校教育部として熱中症対策もあわせて考えていただきたいと思っております。

環境省が出しております熱中症環境保健マニュアル2018の中で、熱中症に効果がある飲料は、5～15℃で、吸収が良く、冷却効果も大きくなりますと書かれております。昨年、熱中症で救急搬送された件数は約4万5千人、今年は約9万5千人と、倍の人数の方が搬送されており、今年の猛暑は、災害的な暑さであったことも証明されております。



来年以降も、間違いなく猛暑が続くと予想され、熱中症に対するもっとも効果のある水分補給が必要だと考えられますが、市としての考えをお聞かせください。

答 子どもの教育環境の整備についてでございますが、夏の暑さ対策といたしまして、すべてのクラスがエアコンの整備された教室で授業が受けられるよう学習環境の充実に向け取り組んでいるところでございます。熱中症の未然防止のため、児童生徒には十分な睡眠をとり、必ず朝食をとるなどの基本的な生活習慣の確立について指導するとともに、保護者懇談会や学校便りなどの様々な機会を通じて、保護者にも啓発しております。また熱中症の予防に関しては、子どもたちにはこまめな水分補給が大切であり、議員ご指摘の対策について調査研究をしております。



問 火災予防の取組みについての質問ですが、セーフコミュニティの理念から考えれば、火災が起こる原因を追究し、常日頃から実施している火災を起こさない予防の取組みについて、この1年間の活動から見ても実績として現れていると感じております。

消防本部として、防火意識の向上を目指した取組みについて、どのように進めてきたのか、お聞かせください。

答 火災予防の取組みについてでございますが、火災発生を防ぐには、市民一人ひとりの防火意識を高め対策に取り組んでもらうことが必要になります。その為にも、市民が出火原因を知り、火災予防に取り組めるよう、情報発信に努めているところでございます。放火をさせない監視の目を強化するため、消防車によるパトロール活動を毎日実施しております。昨年の火災件数は28件、今年は21件と減少されました。消防団、火災予防協会、婦人防火クラブ連合会などの関係機関と連携を密にした啓発活動を続けてきたことにより、安心・安全なまちづくりの推進について進むことができました。今後も更に意識を高め邁進してまいります。

問 災害時の避難についてお聞きします。

台風や集中豪雨による浸水被害や、今後、想定される南海トラフ地震等、松原市として様々な災害に対する対応策を事前の準備として進めていく必要があると思われま。これから高齢化が進む中、避難所の在り方について、市としてどのように進めてきたのか、また、これからの対応について、垂直避難も考えて行くべきと思われま。市としてのお考えをお聞かせください。



答 災害時の避難所の在り方についてでございますが、大和川等の河川の氾濫が発生した場合の浸水被害が想定されており、総合ガイドマップやホームページ等でも周知し、防災訓練を通じて、避難場所や避難経路の事前確認をしていただくよう市民の皆様へ周知しているところでございます。今後も市民の皆様への安心・安全を第一に考え、情報発信を行うとともに、高齢者対策による、より良い安全な避難の方策については研究してまいりたいと考えております。